

桃川如燕口寅
浪上義三郎速記

桃川如燕口寅
浪上義三郎速記

を取ける。この衆師は他國にない
 所見^{しん}中^{ちゆう}所^{しよ}江戸^{えど}の御方^{ごほう}に相違ない
 一最前^{さいぜん}のお披^ひひ識^しに臣服^{しんぷく}をいた
 した、御若年^{ごじやう}ではあるが貴方のや
 うな方を見ると識にお懐かしい、ど
 うかお差支^{さしつか}へがなければ御名配^{ごなはい}が成
 りたうございます」と流石^{りうじき}は傳言^{でんごん}
 限^{かぎ}に留^{とど}めて人を呼付けて居る、か
 う人物はそれだけの智慧がある、
 ういふ人物はそれだけにチヤンバ
 九分ける、今この人物若年ではある
 かど、見所があるから、ソコで
 へ運込んで名師を聞いた、
 も初めは隠匿^{おんかく}して居りましたが、

本ち、**銘仙**
 京城本町二ちとぶや

江ノ不動屋左記ノ日時ニ於テ競賣
ニ附シ競買保請金申出額ノナリ

五十九坪
京城府哈洞百三十二畝地
最低競賣價銀金五百十四圓也

小澤亞四郎平家建木一棟
延坪四拾四年六合二勺五分
取低競賣價銀金八十九圓十五錢也

右說書申立人齊藤久太郎
不動產所有者杉原大徳郎

五十七坪
京版府昌利調四十四番地
最低競賣價銀金七十圓也

池地上ニ建坪
本造木造葺半家建木家一棟
最低競賣價銀金八十圓也

有說書申立人金鎖
不勝庵所屬者金松永泳

五十九坪
香京城府役恩浦四百四十番地
最低競賣價銀金四百二十圓也

同地七建坪
本意九疊半家建木家一種也
最低競賣價銀金十八圓也

京城地方法院

[illegible]

進歩せる國民に
は進歩せる藥劑
を要す
是が理想的なる
は大學目録也

蘇峰 徳富猪一郎著 第五版發賣

天覽 世界の變遷

是れ評論的述作の最も權威ある者也
眞に近來の奇著快著と云ふべき也
熱誠の氣磅礴して句々誦すべし
好主人の好題目を捉へたる者也

日本及日
本人評
時事所
報評
衆知所
聞評
東京日
評

定價 四圓五錢

[illegible]

外科 瘡毒、淋疾
内科 皮膚病、肛門病、痔、腫脹、喉科、時症
(包醫入院)

主催家庭博覧會
城の空
クラ

▼所謂鸚鵡的翻譯的書にあらず(東京朝日評)
 ▼著者以外に聴く可らざる經國論策也(實業之日本評)

發賣所 京城大平通一丁目
 振替 京知三〇〇番
 京城日報社代理部

開催を祝して
 聞く今日も

ゴブ
 緊留(けいりゅう)

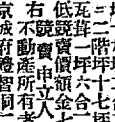
A detailed illustration of a gnarled pine tree, likely a Japanese pine (matsuyama). A small figure is visible climbing the trunk of the tree. The background shows stylized clouds or foliage.

せい
 ほう
 せん
 ぶ
 ぶ

藥材のいらしめ
飲は人
はルーロエフ

養滋きべく驚てしに味美
や人な弱虚りな科飲
りせ當適も尤はに家養生養

衛兵久西小 新本



大飛行

飛行船揚る！

物^{もの}箱^ば くらぶ 白粉^{おしろい}本店^{ほんてん}の

船揚る！^{せんあが}

晝は雄姿堂々
夜は光輝燦然

太平通^{たいへいどお}の空高^{そらたか}く！

總督共進會場巡覽

疾驅して景福宮裡の會場内に入れ

預快よき光化門の大通りには歸るな
 如き行人の往きかひ雨雨無數の大燈
 籠、寶珠の毛ルに飾られたる壯大
 なる光化門等何れも共進會
 の前景氣を示しつゝある中
 に別けて門の彼方には新秋の大空
 く掛ゑたる鐵道館の高塔に
 車を降れば
 ▲眼疊むる許りの白壁の
 鐵道鐵道部の高塔廣き庭など何れも美
 くしく整頓しありて些の塵をも留め
 ナ正面の噴水塔さへ將に
 白龍を躍らんとす勢ひにて
 準備高塔既に完備せるを覺ゆ。總督

秋の陽光が榮むに
 上へ
 一號館の正門に入りて美しき色も
 一號館を飾りたる高き天井を望み
 莞爾として廣き陳列館内を右手に進
 むれば村居務課技師は先頭立ちて
 自動車は美しく飾つた花門通りを

案内役となる。行く程、窺う程に何れも興味深き陳列品語り、先づ第一部の農業部に入れば何れの陳列品も米の

▲雜穀・繭等の優良品を陳

べ壁にはまた一目瞭然たる各種の統計表が掲げられて更に此所を左折すれば今度は第二部の殖産部となり先づ曲り角の大きな毛皮が人目

を惹く中にも威鏡北道

身たるは、是れに於ては如何なるか。然るに藝文の説明を著しては何うかにいふやうな事から一たん巨細となく員に注意する。次に「是れは露島廣電の材料紙である」とあるが、此の紙は露島の新聞紙である。其の間又朝鮮各道から出品したものは頗る意匠が面白いものに接しに雅致ある卓子と椅子との應接間に雅致ある卓子と椅子との應

て總督は頗る感心して
過ぎられる又ボブラ樹の蜜管
や食碗等も面白い製品であつたが其
他金工や螺細工の衛立等生徒の手
工になる逸品が尠くない。其他酒
樽、清涼飲料等を始め各農の家具
類人力車等も出品され、革會社の
出品中には露西亞の軍用靴もあり
盛産には五待盛んになつた各地の農

▲**五彩の虹を描き**
並に高麗燒等が多數に出品されてゐる。總督が約二時間餘もかゝつて主要なる第一號館の表門を出ると面の噴水は一時に高く水煙を挙げし空に

觀云（可なり）次（東拓特別館より）
道館（に入れば此所は朝鮮鐵道一千
の沿線（を美しき油繪とせる間に
列車（が運轉する仕組に
觀客（には大受けものなら
思（はる）次（と全各館の守り

せる。審勢館に入れば此所は各道の
 中にも歴々の部は氣の利いた
 ので總督から甚く褒められて面白
 施した。次に第二號館の教育部で
 各内新人學校の出品が多く中に
 學校教師手製の理科實驗器械や膝

工の手工品等には、最も賞讃を博したやうなものであつた更に土木交通部には郵便電局の事業から燈臺の白熱燈の賣物では仁川大港燈の模型があり各道賜金事業の陳列あり衛生部には井戸の模範を始め一般の井戸の模範を始め一般の模範に解し易い繪畫などが澤山にある

櫻の噴水及び燈及び慶會
大アーケの間に輝や
松翠の間に輝や
櫻の噴水及び燈及び慶會
大アーケの間に輝や
松翠の間に輝や

[illegible]

「曰く『咸鏡道の山奥から出た鮮人はこれを見たら驚くぢやらうなう。』」

●**武術大會の勝負**

寺内總督より寄贈の賞品
日警務總監都構内に舉行せられた
全道憲兵警察劍柔道大會は既報の如くに一本勝負商標試合の結果頗る盛會なりしが當日の勝負は

一京畿總督府
三朝鮮總督府
五大韓總督府
七北滿總督府
九龍南總督府

○松野
○山口
○四國
○西伯利亞
○東亞細亞
○北亞細亞
○南亞細亞
○石山千太郎
○上川野郎
○山岸壽島原淳上影

●**巨豺を射殺す**

李王驛動物園に送りに来る
慶北清道郡には未だ全くヌクラーの虎に出逢ひ出逢ふ

寺に於ては威化家、川岸三郎氏、一等、清州、假使、奉送し、墓地の發掘せられたるもの

古の僧侶は又非常。其處へお寺に建てたる
 座なつてゐる。それ故に古の僧侶は其處
 座と思へ、これ等のお寺に泊る。又
 肉食をなつてゐるが、元此處には
 僧侶の知りなからず従つて
 大祭の伎樂に伶人舞踏者百人
 頗る日本舞臺と類似してゐる。舞臺は度々
 は其處の音律につて動くのであるが、大
 太鼓がフンドンとなる。足あげるの日本と
 同じものである。足あげるに合せ動くの
 は東北地方の舞踏と面白く異なつて。此處

△**僧侶も肉食** するのである、
 なまは肉食は僧侶の戒の一となつてゐるが、
 北の民族が輸入すると、肉食して信するといふのは、頗る味ふべきであらう。一
 院中僧侶は多いが、大人数に至る、千人近く
 あるものもある。大衆は多くなかば僧侶は少
 ない。大衆に多く、僧に多いのは法衆で
 ない。

△**喇嘛の儀式** に於ては少くも
 祭は常であつて、其時には僧侶の内、幾少
 が、善惡を授け、功徳を授け、供養を授け、
 成吉思汗の廟の祭りに、北面王眞經
 院の喇嘛は、喇嘛の儀式を行ふ。喇嘛
 につて、元、喇嘛の風習は、部分面は、
 喇嘛の、喇嘛に、三、喇嘛、一、は、
 北、(保)

[illegible]

山羊を飼食せしむるに午前一二時頃に至りてそれ
を引くも山羊の飼食を喰き下
りて來りしや狙ひ定めて藪然然
と獵し過たず胸中に命中して遂
に射殺せり重量八貫匁前後二
兩に分ちしきも李王職動物
の求めに應じ參考品として四五日
是を動物園に送れりて

● 棧橋に著くとお産
お芽出度い釜山港棧橋
川濱町磯川鶴二郎妻たい(三)は十
朝運船船商麗丸にて下關より入港

海外より運來付居たるところ發
 後、櫻葉と同時に女子を分給し母干
 に健全なり（登山部）

讀者文藝 一時には二十餘
 川柳題義太夫」 所呈

義太はサワリ文句で口説きだし
 （二） 京誠すの字
 白石には巧行き
 友人

龍山 島田 中
 龍浦 中
 龍山 中

[illegible]

が今日でも興安嶺中のシヤンゴル盟の經東
 マン、及び東ゴビの沙漠中なるチハダ盟
 色ゴロートの如き處に往くと、猶ほシヤアマ
 の面影を隱へ遺して居るものがあるの
 らは、研究家にとつて最も大切なところであ
 る。此シヤマン敵のことを蒙古人は「巫」
 と呼んでゐるが

の病氣を癒やすものとして居るが、彼等の
では人が病氣になるのの想、彼等が人の身
を這入つて来る故であるから、夫れた巫女が
へば癒るといふ信念を有つてゐるのである
は又大鼓を敲き腰に鎖をつけて踊るのであ
る時に「ヤラン」といふ鎖が鳴るので
皆を驚かす爲めとしてゐる、大鼓はわ
ける響きが遠くからしてゐる、

に、これに就て尋ねしに、**「世せば大層長くなるが、こんな朝晩の寒さな土地にもシヤア教の一帯が這つてゐる事は頗る注意す可いであつて、留**

留の巫女は滿洲にも、西北利亞にもあり、殊

群のヤマトシは雪と同等のもの、

な事を研究するとは昔も同様で多きものがあ

ひなからサマワか國の原状別の上にも一遺

が通じ居るやうに思はれるのである。

弊商會は從來太平通一丁目十六番地に營業罷
在候處今般工場並に營業部擴張の爲め左記へ
移轉仕候に付廣告仕候也

京城太平通一丁目五番地
(京城日報社前)

廣江商會

營業部用電話五七六番
同工務用電話三八七番
第一工務用電話三八七番


第二分工場用電二三六番
市内總販賣部電二三六番
主人專用電話五五二番
支配人專用電話五五四番
保管室電話七〇七番以上又二口

田式足踏精米機

製造發賣所
特約販賣店 釜山釜山海驛前
電話三九五番

釜山幸町二丁目
三三三
植木商會

勿驚天下 一品の本機は各郡に
一ヶ所の特約販賣店を設け本機の把握
けあり故に江湖諸彦實地御試験
の上御注文に應じ度候
御申越次第説明普及定價表送呈仕候
特約店御希望の御方へは特に御相談
申上候



最上薄口醬油

生揚印

發賣仕候

永登浦 大塚醬油釀造所

諸君
御用
洋藥
賣藥
P
山

此
り
は
山

山岸天祐堂
電話
二〇六
番機部

藥品部
芳通信販賣致居候
東京町子自町屋角

新橋本町二丁目

醫療及試験器械
 京城旭町三丁目(元十全病院跡)
 小兒科専門 若槻醫院
 内科 若槻寛隆
 ドクトル
 マヂチーネ
 電話二四六二番

